

危険な「日韓海底トンネル」

朝鮮時報

1997/6/18

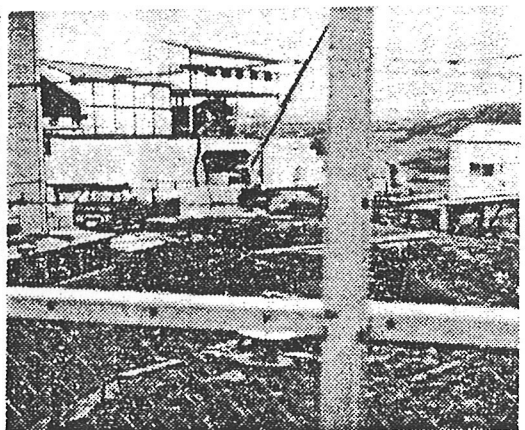
背景に「韓」日
反動の思惑

狂信的な反共同体である「世界基督教統一神霊協会」（統一協会）の教主、文鮮明が提唱した「国際ハイウェイ構想」をうけて、いま「日韓海底トンネル計画」なるものが進められている。この動きは、日本帝国主義の「大東亜共栄圏」を再現し、軍事を中心に経済などあらゆる分野で「韓日運命共同体」を実現しようという、時代の流れに逆行するきわめて危険な策動である。統一協会独自の動きというよりは、南朝鮮に対する侵略野望を実現して「韓日運命共同体」を追求する日本反動勢力とそれに追従する全斗煥一派、さらには米・日・南朝鮮の軍事一体化の完成に拍車をかけるアメリカを背景にして出てきたものである。

「大東亜共栄圏」ふたたび

「世紀の大プロジェクト」「世界を一つ」という宗教的夢への挑戦と、統一協会系の学者や文化人からもあげられている文鮮明の「国際ハイウェイ構想」だが別に目新しいものではない。日本鉄道庁監修官・湯

縦断し、トンネルあるいは鉄橋で日本列島と連結して日本を縦断する「大東亜ハイウェイ」、ここでは自由が保障される」とし、「自由圏大ハイウェイ」の建設で「アジア共同体が形成される」「アジア諸国間では自由往来が可能となります。その結果、北朝鮮は軍事力による侵略の野望を放棄し、「日本とアメリカの方向も自動的に一致を見ます」とのべている。



極東開発名護屋試験場のなか
にある調査斜坑の建設現場

「運命共同体」でびったり

「日韓古代文化同根論は今や常識だ。韓国は運命共同体だ。

兵制もなく、国民所得一割以下
の防衛費で平和を享有できるの
は、日米安保条約による核の傘
と、大韓民国の国民所得の5・
5%防衛費負担のおかげである
ことを銘記すべきである。この
昨年十月、佐賀県・鎮西町の

莫大な利権
ゆ着の温床

これらの動きは、アメリカの
極東戦略にもとづいていると見
てもよい。軍事、政治、経済、
文化などあらゆる面で結託を強
めている三角同盟にとっても、
このトンネルができれば、空
と海上だけでなく、海底でも直
結していくわけで、米日「韓」
三角軍事同盟の完成にいつぞう
拍車がかけられる危険性を持つ
わけだ。

三角軍事一体化の産物

本界が一九三九年「大東亜共栄圏構想」の一環として、日本・朝鮮・中国・ヨーロッパ・パシフィック間を走る「大陸横断鉄道計画」を作成したことはその方面

日本の四つの島が橋や隧道で結ばれたように、日韓もトンネルで結ばれ一國のよつにパスポートなく自由往来できる日が夢

「清水重八郎・千葉大教授」だ。「敗戦日本が、今日の繁栄を
持てたのは、38度線の戦争によ
る米国の態度の激変。そして
事変ブームのおかげであり、彼
と、日本は韓国と同じ領土にあ

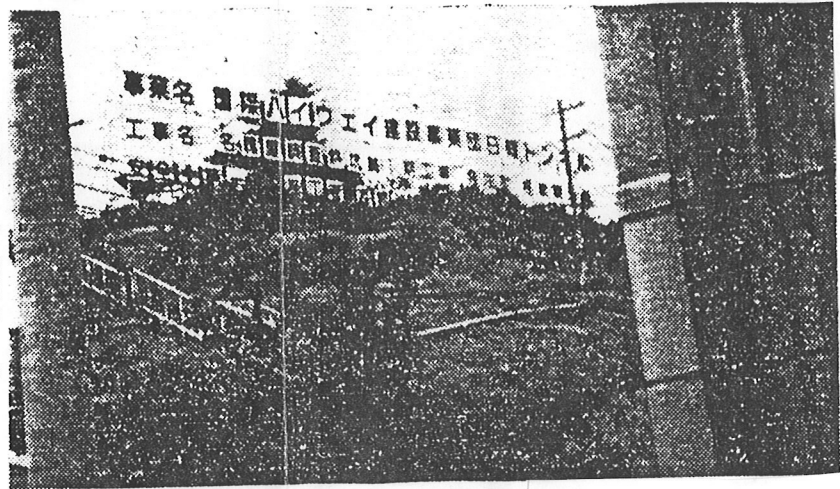
これは「日韓トンネル研究
会」が発行している「日韓トン
ネル時報」から抜粋したもの
だが、「安全保障面からみる
れ、「二つの朝鮮」策を追求し
南朝鮮だけでも掌握しようとする

の關係者によく知られていた。
それをまたぞろ何故、文鮮明は
むしかえしたのか。

文は「中国大陸から韓半島を

「アジアの平和」などの美名
のもとに統一協会・勝共連合を
暗躍させ、南朝鮮を植民地軍事
基地にし、朝鮮を永久分裂させ
ようという「韓」日反動の策動
を許すことはできない。とくに
文の発言にもあるように、
このトンネル計画が朝鮮民主主
義人民共和國を敵視する立場か
ら出たものであることを看過す
ることはできない。彼らが、平
和ではなく戦争を望んでいるこ
とが、この計画によつてふたた
び明らかになった。

朝鮮時報 1997/6/18



「国際ハイウェイ建設事業団日韓トンネル」の看板（佐賀県・筑西町）

統一協会がしゅん動

提唱は「教主」文鮮明

一九八一年、ソウルで開かれた「科学の統一に関する国際会議」（文鮮明が創設した国際文化財団が主催）で、文鮮明は「統一世界を形成し地上天国を實現する統一運動」の一環として、「中国から韓国を通り日本に至るアジア大ハイウェイの建設」を提唱した。ゆくゆくはヨ

一九八一年、ソウルで開かれた「科学の統一に関する国際会議」（文鮮明が創設した国際文化財団が主催）で、文鮮明は「統一世界を形成し地上天国を實現する統一運動」の一環として、「中国から韓国を通り日本に至るアジア大ハイウェイの建設」を提唱した。ゆくゆくはヨ

副会長の金山政英・元駐「韓」大使は勝共連合代表世話人顧問の高田源清・九州大名誉教授は勝共連合福岡総支部長といった具合である。また、工事や測量にあたる「極東開発株式会社」の藤橋健次・代表取締役、大江益夫・監査役らは統一協会の信者だ。

長に、梶栗が理事長に就任した。国際文化財団に援助される学者文化人をつくる「世界平和教授アカデミー」も参画、事業団の助言組織として「日韓トンネル研究会」も結成された。約千人が会員になっているというが、統一協会、勝共連合系人脈で占められている。たとえば名譽会長の松下正寿・元立教大総長は勝共連合教授団名誉会長、兆田と見積もられている。